

トルコは遠く離れた親日国で、近年も日本国民の多くの命を助けてくれた尊敬すべき国です。

トルコの大地震の一報を受けて、どの国より早く日本は救助に向かうべきですね。

エルトゥールル号遭難事件の逸話をドキュメンタリー番組などでご存知の方も多いと思いますが、**その時にも朝日新聞は、ゴミでした。**

まず、この関西ローカルの番組を是非ご覧ください

再現ドラマに心打たれます

で、その後のコメンテーターの指摘に唖然とします・・

【世界が忘れない日本の物語】

(VTR終了後・・・)

たむけん「いや、これは伝えてもらわんと。」

リンゴ「なんかこう、良いことをした方は伝えてなくてね、されたほうだけに伝わっている話、」

筒井氏「これ、**最初マスコミね、トルコがあんな事してくれたのは経済問題で、**そんなこと言っていましたよね。」

井沢元彦氏「そうそうそう！**カネの為だと言った。**とんでもない話なんです。**そういう事をいうマスコミのヤツがいる**んです。」

...何故トルコが助けてくれたのか、それは日本からの経済援助をあてにしてたり、その経済援助を受けていたからだということを新聞が書いたんですよ。日本の新聞が。」(サイアクや、えー?!うわあ)

それでさすがにトルコの大使が怒りましてね、で投書したんですよ『**我々はこの借りを返したただけだ**』って。

これはどんなにスゴイことかって言うと、**トルコ国民も残ってたわけですよ、600人くらい。それよりも日本人をまず助けてくれた。**

だから、しかもあの飛行機ってのは、何故日航が行かなかったかっていうと、撃墜されるからですよ。要するに早く脱出しなければいけない。ところが外務省がグズグズしていたんで日航機もう行く時間がない。

で、もう切羽詰ってトルコの人に頼んだら、『分かりました』ってやってくれた。」

筒井氏「**だけどトルコもギリギリでしたね。危ないとこだった。**」
井沢元彦氏「**そうです。**」 (以下 略)

で、**そんな非常識な新聞**はもちろん・・・

地球史探訪:エルトゥールル号事件のこと (http://www.2s.biglobe.ne.jp/~nippon/jogbd_h11_2/jog102.html) さまより

(抜粋して赤字強調)

2. 日本・トルコ関係史に無知な朝日

こうして、もはや万事休すと思われた土壇場、翌20日の朝刊に「テヘラン在留邦人希望者ほぼ全員出国/トルコ航空で215人」という朗報が載った。

何とトルコ航空機がテヘランに乗り入れ、邦人215人を救出してくれたのである。

まさに間一髪であった。掲載された写真には無事脱出できた子供たちを含む邦人家族の喜びの顔が写っている。

YouTube **必見動画!**
トルコ人が日本を好きな理由 1/2
<http://youtu.be/RIO7XWbq7Q>
再生回数12万7千回以上



さて、ここで考えなければならないのは、なぜトルコが危険を冒してまで邦人を助けたのかということであるが、この疑問に対して朝日新聞の記事はこうである。

すなわち「**日本がこのところ対トルコ経済援助を強化していること**」などが影響しているのではないかと、**当て推量を書いておしまい**なのである。

自国の歴史に無知とはこういうことを言う。日本とトルコには歴史的に深いつながりがあるのだ。この記事を書いた記者が知らないだけである。

無知だけならまだしも、金目当ての行為であったかのように書くとは冒涜もなはだしい。トルコは長いあいだ日本に対する親愛の情を育ててきた国である。

3. 駐日トルコ大使のコラム

その証左として、昨(平成9)年一月の**産経新聞**に載った駐日トルコ大使ネジャッティ・ウトカン氏のコラムを紹介する。

これを読むだけでも、トルコが何故日本に親愛の情を寄せるに至ったかの消息が明らかになる。それは日露戦争をさらに遡る明治二十三年の出来事に端を発している。

勤勉な国民、原爆被爆国。若いころ、私はこんなイメージを日本に対して持っていた。中でも一番先に思い浮かべるのは**軍艦エルトゥールル号**だ。1887年に皇族がオスマン帝国(現トルコ)を訪問したのを受け1890年6月、エルトゥールル号は初のトルコ使節団を乗せ、横浜港に入港した。三ヵ月後、両国の友好を深めたあと、エルトゥールル号は日本を離れたが、台風遭い和歌山県の串本沖で沈没してしまった。

悲劇ではあったが、この事故は日本との民間レベルの友好関係の始まりでもあった。この時、乗組員中600人近くが死亡した。しかし、約70人は地元民に救助された。手厚い看護を受け、その後、日本の船で無事トルコに帰国している。当時日本国内では犠牲者と遺族への義援金も集められ、遭難現場付近の岬と地中海に面するトルコ南岸の双方に慰霊碑が建てられた。

エルトゥールル号遭難はトルコの歴史教科書にも掲載され、私も幼いころに学校で学んだ。子供でさえ知らない者はいないほど**歴史上重要な出来事**だ。

ここに挙げられたエルトゥールル号遭難に際して、台風直撃を受けながらも約70人のトルコ人を救助した地元民とは、和歌山県沖に浮かぶ大島の村民である。

イラン・イラク戦争の逸話は1985年(昭和60年)ですから、**95年前の恩を忘れなかったトルコ!** ということです。

あの頃を生きた日本人が素晴らしいのはもちろんですが、**感謝の気持ち**が、**時空を超えて現代日本人の多くの命を救った**なんて胸が熱くなります。

それに対し2006年春の叙勲で、

別枠の外国人叙勲は21カ国の49人。国別最多はトルコの13人で、イラン・イラク戦争中の1985年にテヘランから日本人200人以上を救出したトルコ航空特別機の当時の乗務員ら。

小泉首相が今年1月のトルコ訪問で元機長と懇談したのがきっかけとなった。

ということなんですが、20年経って表彰って・・・遅っ(・・・)
今こそ、イラン・イラク戦争の時の恩を全力で返す時です

エルトゥールル号 朝日新聞 正体

トルコ人が日本を好きな理由

*** 紹介動画&関連リンクはブログからご覧下さい!**